

7. 財務

7. 財務

(1) 予算・決算対照表（平成27年度）

科 目	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	予算額に比べ 決算額の増減	予算額に対する 決算額の比率
	円	円	円	円	%
下水道事業収益	3,309,000,000	3,307,275,407	0	△ 1,724,593	99.95
営業収益	2,086,026,000	2,082,572,684	0	△ 3,453,316	99.83
営業外収益	1,222,954,000	1,224,702,723	0	1,748,723	100.14
特別利益	20,000	0	0	△ 20,000	—
科 目	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	予算額に対する 決算額の比率
下水道事業費用	3,328,000,000	3,171,661,456	0	156,338,544	95.30
営業費用	3,168,075,000	3,027,268,808	0	140,806,192	95.56
営業外費用	153,452,000	144,269,363	0	9,182,637	94.02
特別損失	1,795,000	123,285	0	1,671,715	6.87
予備費	4,678,000	0	0	4,678,000	—
科 目	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	予算額に比べ 決算額の増減	予算額に対する 決算額の比率
資本的収入	637,106,000	425,171,340	0	△ 211,934,660	66.73
企業債	323,300,000	183,800,000	0	△ 139,500,000	56.85
出資金	164,464,000	119,903,921	0	△ 44,560,079	72.91
国県支出金	106,416,000	64,616,000	0	△ 41,800,000	60.72
負担金	42,826,000	55,754,521	0	12,928,521	130.19
固定資産売却代金	0	1,080	0	1,080	—
その他資本的収入	100,000	1,095,818	0	995,818	1,095.82
科 目	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	予算額に対する 決算額の比率
資本的支出	1,261,052,000	938,992,443	139,558,000	182,501,557	74.46
建設改良費	865,419,000	554,130,605	139,558,000	171,730,395	64.03
企業債償還金	384,863,000	384,861,838	0	1,162	100.00
予備費	10,770,000	0	0	10,770,000	—

(2) 比較損益計算書

年 度		26		27		対前年度比				
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	27				
收 益 的 支 出	総収益(B+E)A		3,121,789	100.0	3,162,233	100.0	101			
	う	経常収益(C+D)B		3,121,789	100.0	3,162,233	100.0	101		
		う	営業収益C		1,900,672	60.9	1,937,539	61.3	102	
			う	下水道使用料		1,794,887	57.5	1,815,489	57.4	101
				雨水処理負担金		105,194	3.4	120,800	3.8	115
				受託工事収益		0	0.0	0	0.0	-
		営業外収益D		1,221,117	39.1	1,224,694	38.7	100		
		ち	他会計負担金		94,599	3.0	94,224	3.0	100	
			長期前受金戻入		1,125,908	36.1	1,129,285	35.7	100	
		特別利益E		0	0.0	0	0.0	-		
		総費用(G+J)F		2,984,942	100.0	3,047,596	100.0	102		
	う	経常費用(H+I)G		2,969,235	99.5	3,047,480	100.0	103		
		う	営業費用H		2,838,231	95.1	2,935,828	96.3	103	
			う	職員給与費		145,561	4.9	146,813	4.8	101
				受託工事費		0	0.0	0	0.0	-
				減価償却費		1,606,270	53.8	1,622,607	53.2	101
		ち	流域下水道維持管理費		881,978	29.5	914,013	30.0	104	
営業外費用I			131,004	4.4	111,652	3.7	85			
ち		支払利息		113,545	3.8	103,997	3.4	92		
	特別損失J		15,707	0.5	116	0.0	1			
経常利益(経常損失)B-G		152,554	-	114,753	-	75				
純利益(純損失)A-F		136,847	-	114,637	-	84				

(3) 比較貸借対照表

項目		26		27		対前年度比
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	27
資 産	固定資産	42,752,791	98.4	41,650,178	98.2	97
	うち					
	償却資産	38,707,505	89.1	39,192,154	92.4	101
	減価償却累計額	△ 1,433,743	3.3	△ 2,881,815	6.8	201
	無形固定資産	4,119,678	9.5	3,964,709	9.3	96
	投資その他の資産	3,000	0.0	3,000	0.0	100
	流動資産	673,732	1.6	778,759	1.8	116
	うち					
	現金・預金	334,676	0.8	520,302	1.2	155
	未収金	232,808	0.5	212,730	0.5	91
貸倒引当金	△ 1,752	0.0	△ 2,373	0.0	135	
貯蔵品	0	0.0	0	0.0	—	
資産合計	43,426,523	100.0	42,428,937	100.0	98	
債 務	固定負債	3,966,569	12.0	3,800,418	11.9	96
	うち					
	建設改良等の財源に充てるための企業債	3,966,569	12.0	3,800,418	11.9	96
	流動負債	541,732	1.6	474,021	1.5	88
	うち					
	建設改良等の財源に充てるための企業債	384,862	1.2	349,952	1.1	91
	未払金	144,351	0.4	109,407	0.3	76
	繰延収益	28,641,483	86.4	27,642,147	86.6	97
	うち					
	長期前受金	29,751,864	89.7	29,866,496	93.6	100
収益化累計額	△ 1,110,381	3.3	△ 2,224,348	7.0	200	
負債合計	33,149,784	100.0	31,916,586	100.0	96	
資 本	資本金	9,492,007	92.4	9,749,831	92.7	103
	剰余金	784,731	7.6	762,520	7.3	97
	内					
	資本剰余金	647,884	6.3	647,884	6.2	100
	当年度未処分利益剰余金	136,847	1.3	114,637	1.1	84
資本合計	10,276,739	100.0	10,512,351	100.0	102	

(注) 地方公営企業会計制度が改正されたため、平成26年度より新会計基準に基づく処理となっている。

(4) 資本的収入及び支出の状況

(税込)

項目		年度	26	27
			金額(千円)	金額(千円)
資 本 的 収 入	資 本 的 収 入 K		641,633	425,171
	う ち	企 業 債	256,000	183,800
		出 資 金	208,393	119,904
		国 県 支 出 金	119,743	64,616
		負 担 金	56,607	55,755
	資 本 的 支 出 L		1,324,670	938,992
	う ち	建 設 改 良 費	926,934	554,131
		企 業 債 償 還 金	397,736	384,862
	収支差引 (K-L) M		△ 683,037	△ 513,821
	ほ て ん 財 源 N		683,037	513,821
ほ て ん 財 源 不 足 額 (M+N)		-	-	
余裕資金又は不良債務 (△)		132,000	304,738	
当 年 度 繰 入 金 合 計		408,186	334,928	
う ち	基 準 内 繰 入 金		408,186	334,928

(5) 要素別費用構成表

項目	年度	26		27	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
人件費		158,214	5.3	146,813	4.9
動力費		10,392	0.3	10,499	0.4
修繕費		37,554	1.3	54,325	1.8
委託料		56,955	1.9	82,965	2.8
薬品費			0.0		0.0
流域下水道維持管理費		881,978	29.5	914,013	30.6
減価償却費		1,606,270	53.8	1,622,607	54.4
資産減耗費		17,925	0.6	15,539	0.5
支払利息		113,545	3.8	103,997	3.5
その他		102,109	3.4	96,839	3.2
計		2,984,942	-	3,047,597	-

(6) 企業債の状況

(単位：千円)

区分	借入金	償還金			年度末 現債高
		元金	利子	計	
H20	71,700	473,379	203,994	677,373	6,143,832
H21	65,800	464,089	191,493	655,582	5,745,543
H22	28,000	462,771	178,497	641,268	5,310,772
H23	73,400	441,363	164,579	605,942	4,942,809
H24	114,900	426,314	150,324	576,638	4,631,395
H25	559,600	697,828	130,090	827,918	4,493,167
H26	256,000	397,736	113,545	511,281	4,351,431
H27	183,800	384,862	103,997	488,859	4,150,369

(7) 経営分析

ア. 業務分析表

項目	年度		備考	算定式	全国平均	同規模平均
	26	27				
使用料単価(円/㎡)	108.06	108.56	1㎡当たりの使用料単価。	下水道使用料 年間総有収水量	136.69	142.82
処理原価(円/㎡) (総務省基準：決算状況調査)	99.14	100.70	1㎡当たりの処理原価。 平成26年度の制度改正に伴う、長期前受金(理金の裏付けのない収入)を差し引いた原価	汚水処理費 年間総有収水量	125.49	137.95
処理原価(円/㎡) (佐倉市基準)	132.70	133.97	1㎡当たりの処理原価。 長期前受金(理金の裏付けのない収入)を一部を除き差し引かない原価	汚水処理費 + 補助金を除く長期前受金戻入益 年間総有収水量	—	—
職員1人当たり水汚化人口(人)	10,633	10,629	労働生産性を示す指標。 指数は高いほどよい。	水汚化人口 損益勘定所屬職員数	—	8,605
職員1人当たり有収水量(㎡)	1,107,368	1,114,942	労働生産性を示す指標。 指数は高いほどよい。	年間総有収水量 損益勘定所屬職員数	—	950,609
有収率(%)	81.33	81.08	処理水量に対し、どのくらいの有収水量があったかを示す。有収率は100に近いほどよい。	年間総有収水量 年間総処理水量 × 100	78.6	77.6

(注) 1. 「同規模(現在処理区域内人口10万人以上30万人未満の事業)平均」及び「全国平均」は、「平成26年度地方公営企業年鑑」による。

イ. 財務分析表

項目	年度		備考	算定式	全国平均
	26	27			
自己資本構成比率(%)	89.6	89.9	固定負債構成比率が小であるほど経営の安全性が高いと言える。	$\frac{\text{資本合計} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	56.1
流動比率(%)	124.4	164.3	短期債務に対応すべき流動資産が十分にあるかを示す。指数は200以上が理想	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	56.5
経常収支比率(%)	105.1	103.8	経常費用に対する経常収益の割合で、指数は高いほどよい。	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	107.7
営業収支比率(%)	67.0	66.0	営業費用に対する営業収益の割合で、指数は高いほどよい。	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事収益}} \times 100$	90.0
企業債償還金元金対料金収入比率(%)	22.2	21.2	料金収入に対する企業債償還元金の割合で、指数は低いほどよい。	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$	96.8
企業債利息対料金収入比率(%)	6.3	5.7	料金収入に対する企業債利息の割合で、指数は低いほどよい。	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$	31.2
企業債元利償還金対料金収入比率(%)	28.5	26.9	料金収入に対する企業債元利償還金の割合で、指数は低いほどよい。	$\frac{\text{企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	128.0
職員人件費対料金収入比率(%)	7.2	7.3	料金収入に対する職員給与費の割合で、指数は低いほどよい(労働分配率を示す)。	$\frac{\text{職員人件費}}{\text{料金収入}} \times 100$	9.7

(注) 1. 全国平均の値は、公共下水道(法適用企業)の平均値である。